

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた
機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議（第6回）

議事概要

1. 日時：平成29年12月18日（月） 9：00～10：00
2. 場所：合同庁舎4号館12階 第1214特別会議室
3. 出席者：

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 鈴木 俊一 | 東京オリンピック・パラリンピック担当大臣 |
| 平田 竹男 | 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長 |
| 住田 孝之 | 内閣府知的財産戦略推進事務局長 |
| 宮田 亮平 | 文化庁長官 |
| 平井 裕秀 | 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付） |
| 間宮 淑夫 | 内閣官房文化経済戦略特別チーム内閣審議官 |
| 永山 裕二 | 文化庁長官官房審議官 |
| 池田 憲治 | 総務省大臣官房地域力創造審議官 |
| 奈良 俊哉 | 総務省情報流通行政局審議官 |
| 宮川 学 | 外務省大臣官房国際文化交流審議官 |
| 並木 稔 | 国税庁長官官房審議官 |
| 宮崎 雅則 | 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長 |
| 丸山 雅章 | 農林水産省食料産業局審議官 |
| 藤木 俊光 | 経済産業省大臣官房商務・サービス審議官 |
| 米村 猛 | 観光庁観光地域振興部長 |
| 桃原 慎一郎 | 東京都生活文化局次長 |
| 越 秀幸 | 東京都オリンピック・パラリンピック準備局総合調整部計画調整担当部長 |
| 十河 慎一 | 東京都産業労働局次長 |
| 古宮 正章 | 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長 |

（オブザーバー）

- | | |
|--------|----------------------|
| 古尾谷 光男 | 全国知事会事務総長 |
| 木村 成仁 | 全国市長会社会文教部副部長 |
| 原山 和巳 | 全国町村会政務次長 |
| 小島 寛之 | 独立行政法人国際交流基金企画部部長 |
| 山下 登 | 独立行政法人国立文化財機構本部事務局局長 |
| 青木 早苗 | 独立行政法人国立美術館理事 |
| 木村 直樹 | 独立行政法人日本芸術文化振興会理事長代理 |
| 若井 英二 | 株式会社海外需要開拓支援機構専務執行役員 |

藤井 真也 独立行政法人日本貿易振興機構サービス産業部部長
福島 正敏 独立行政法人国際観光振興機構海外プロモーション部次長

(事務局)

多田 健一郎 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局企画・推進統括官
藤澤 秀昭 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局参事官

※下線は代理出席

4. 議事要旨

<平田局長 挨拶>

【平田局長】

おはようございます。オリンピック・パラリンピックに向けて1000日を切り、各方面における準備が進んでいる中、皆様のご準備に対して感謝いたします。

1000日を切った今、スポーツを超えて、東京を超えて、2020年を超えて、日本のオリパラをどうしていくのが重要な局面になっておりまして、本日、是非充実した議論をしていただきたいと思っております。

<内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局の取組について>

・内閣官房オリパラ事務局より、資料2について説明。

<関係府省庁等の取組について>

・関係府省庁等より、資料3から資料9について説明。
・厚生労働省から、障害者の芸術文化活動の支援について発言あり。

<東京都、組織委員会の取組について>

・東京都、組織委員会より、資料10、資料11について説明。

<文化プログラムに関する政府の取組について>

・内閣官房オリパラ事務局より、資料12について説明。

<文化経済戦略について>

・内閣官房文化経済戦略特別チームより、資料13について説明。

<意見交換>

【宮田文化庁長官】

ロンドン大会では、約 11 万件の文化プログラムが実施されました。ただ、その中でよく知っているものかというと、例えばプールの中で車いすでダンスを踊るなど、印象的なものは十数件程度ではないでしょうか。件数というのは非常に大事なことでありますが、質の高い文化プログラムの実施ということにも、重きを置いていきたいと思っています。

【住田知財事務局長】

日本の魅力を発信する際には、相手が受容しやすいように伝えることが大事です。伝統的な文化ばかり発信してしまうと、消化不良となってしまいます。例えば、食文化の発信ならば、伝統的な食文化だけでなく、外国の食文化を工夫して取り入れてきたことなど、日本の強みでもある、我が国食文化の多様性を上手に伝えながら、伝統的なものも魅力として発信していくといったことが重要だと思います。

<平田事務局長より総括>

【平田局長】

本日はありがとうございました。東京都、組織委員会におかれましては、2020 年に向けて着実に準備が進んでいる状況を共有いただき、ありがとうございました。

政府では 2020 年に向けた着実な準備もさることながら、2020 年以降に、文化に関する施策がしっかりと持続していくことも重要であると認識しており、関係府省庁等にお話しいただいた施策を着実に進めていくことが大事だと考えています。

「beyond2020 プログラム」については、内閣官房の他にも関係府省庁や都道府県等認証組織となっていた幅広い関係機関で認証する体制をとっており、着実に件数も増えつつあるところです。2020 年に向けて文化のコンテンツを準備していく際に、beyond の認証要件でもある外国人、障害者に配慮した取組を進めていくことを 2020 年以降に残していきたいと思っています。宮田副座長からのお話にもあったとおり、ただ件数を追うのではなく、文化プログラムの中身をしっかりとしたものにしていきたいということです。その背景には、ソフトターゲットに対するテロのリスクに十分な配慮が必要となっていることもあります。

先般、文化芸術振興基本法の生活文化の例に「食文化」が追加されました。住田副座長ご指摘のとおり、伝統的な芸術から、クールジャパンとして世界中が注目するコンテンツ、食文化まで、文化というものを幅広く捉えていきたいと考えています。さらに、文化イベントにおける公共空間の活用も必要であると考えています。

宮田副座長が常々おっしゃるとおり、「文化」、「観光」、「産業」が 2020 年以降に残る施策のキーワードになると思います。今後は、「産業」の中で「文化」がどのように活

用されるのかについても施策として考えていきたいと思ひます。

これまでの検討を通じ、何よりも日本人自身が日本の文化のことを知らないということを痛感しています。関係府省庁等が連携することで、子供から大人まで、日本人自身が日本文化の魅力を知ることが2020年以降のレガシーとしていきたいと思ひています。

本日はお忙しいところ、闊達なご議論をいただき、誠にありがとうございました。

<鈴木東京オリンピック・パラリンピック大臣 挨拶>

本日はお忙しい中、多くの関係機関の方々に出席いただき、また活発な意見交換を行っていただき、感謝しています。

私自身、組織委員会や東京都などの1000日前イベントに出席し、日本の文化を世界に発信したいといった声を聞きました。また、街全体がオリンピック・パラリンピックで盛り上がる様子を見て、2020年に向け機運が高まっていると実感したところです。

大会まで、いよいよ1000日を切りました。本日お集まりの関係省庁、東京都、組織委員会、関係機関の皆さまには、しっかりと連携して取り組んでいただきたいと思ひます。

また、一人でも多くの方に参加意識を持っていただくため、被災地を始め全国各地で、積極的に取り組んでいただくことが重要です。

beyond2020プログラムでは、日本の文化の魅力を発信する事業で、障害者にとってのバリアを取り除く取組や、外国人にとっての言語の壁を取り除く取組を含む事業を認証させていただいています。現在、認証件数は2,400件を超えたところです。こうした取組が、全国で文化を通じた国際化の促進や共生社会の実現につながることを期待しています。今後とも、大会本番に向け、より一層連携しながら取組を進めていただきたいと思ひます。

・閉会